

平成23年度 目黒区立第三中学校 学校評価のまとめ

平成24年2月24日

評価項目・指標	アンケートの結果	自己評価の結果	学校評価委員会の意見	次年度の教育課程の改善
学校教育への満足度 ・学校の雰囲気、学習環境、 教職員の態度等	生徒・保護者の約80%が肯定的な評価をしている。学校教育への満足度は高いといえる。	生徒の評価で学校生活の充実度は高いものの、満足度については低い学年がある。原因を分析し対応を図る。	全体的に落ち着いた雰囲気であった。生徒たちが楽しそうに授業を受けていた。満足しているのではないかな。	生徒の評価で肯定的な評価が低い項目について重点的に分析し、改善を図る。学習・生活面での充実を図る。
教育課程 ・教育目標、 教育課程の編成や実施の状況等	保護者・地域・教職員からは85%の肯定的な評価だった。生徒の教育目標、学年目標の理解度は78%で9%下がった。	教育目標は次年度も継続していく。常に意識した教育活動を推進する。朝礼時の講話など、機会を捉えて教育目標を意識させる。	教育目標4項目どれも重要である。「自ら考え、行動できる人になろう」は今の子どもたちに大切である。	引き続き、「思いやりのある人になろう」「自ら考え、行動できる人になろう」を重点項目として取り組んでいく。
学習指導・進路指導 ・授業時数の量的拡大、 授業の改善・充実 ・学力の定着・向上、 職場体験の実施等	・学力定着、授業の雰囲気について保護者から73%の肯定的な評価、授業の分かりやすさ、工夫について生徒から80%の肯定的な評価であった。授業規律面では56%となり低い結果となった。 ・職場体験等の体験的な学習について生徒・保護者の評価を平均すると78%の肯定的な評価だった。 ・進路指導については72%の生徒が肯定的な評価であった。	・1、2年生の授業規律面の評価が低い。朝の読書などにしっかり取り組ませ落ち着いた雰囲気です授業に臨めるよう指導を強化する。指導者側にも生徒が主体的に取り組む授業等を工夫する。 ・様々な体験的な学習は良好な人間関係づくりなどに有効である。今後は地域とも連携し、さらに充実を図っていく。進路学習も含め、計画的な取組を継続していく。	・授業規律面での評価が低いが1年生は成長段階でやむを得ない面もあるのでないかな。根気強く指導していく必要がある。 ・授業を見て、個性を伸ばそうという指導がうかがえた。落ち着いた学級の雰囲気が学力面にもいい影響を与えるものと思う。体験の場を充実させてほしい。	・人権教育に取り組んだ結果、学習面にも良好な結果が現れた。授業改善には組織的な取組が必要である。新学習指導要領の趣旨を再確認し組織的に学力向上を図る。 ・一つ一つの体験的な学習の意義を教育活動全体の中で明確にし、他の教育活動との関連を図る。事前・事後学習を徹底する。 ・地域の協力を仰ぎ、体験の場の充実を図る。
生活指導 ・いじめや不登校の現状と対応、 安全指導等	「仲良く学校生活を送っているか」という設問では生徒・保護者とも86%以上の肯定的な評価であった。	長期休業明けの「悩みアンケート」などが定着した。日常的な声かけや教育相談的な関わりが徹底している。つまりきの早期発見・早期対応に心がけた結果、不登校生徒も減少している。	スクールカウンセラーの活用を望む。週1日の勤務では生徒も相談しづらいのではないかな。保健室でもメンタル面のケアを充実させてほしい。	引き続き長期休業明けを「ふれあい月間」とし、教育相談的な関わりを深めていく。スクールカウンセラーとの連携をさらに図っていく。学級経営を充実させ、一人一人にとって居心地の良い学級を目指す。

評価項目・指標	アンケートの結果	自己評価の結果	学校評価委員会の意見	次年度の教育課程の改善
心の教育 ・ 道徳の授業の充実 生徒の道徳的実践力等	道徳の授業を含め、思いやりの心や命の大切さについて肯定的な評価が生徒・保護者平均 83% という高い評価であった。特に生徒による評価は 91% という高い評価であった。	人権教室や人権標語づくりとも関連させ心の教育の充実を図った。人権教育推進の成果もあり、人権感覚が高まった。道徳の授業を工夫し、生徒の心を揺さぶることが大切である。	2 年間人権教育に取り組んだ成果が数字に表れている。今後も引き続き人権教育の研究を推進してほしい。気仙沼中との交流もぜひ続けてほしい。	人権教育、心の教育は全ての教育活動の土台となるものと位置付け、今後もさらに充実を図っていく。「震災と人権」をテーマに、気仙沼中との交流も図っていく。保護者への啓発も行っていく。
健康促進・体力向上 ・ 運動の機会の充実、 食育や家庭への啓発等	肯定的な評価が生徒 87%、保護者 78% で、両者とも昨年度よりやや向上した。満足度は高いと言える。	学校歯科医による「歯の健康教室」を実施し給食後の歯磨きを推奨した。食育について、学校栄養職員による給食だより、講話、栄養クイズ、試食会などで啓発を図った。	給食を楽しみにしているようである。食育にもさらに力を入れてほしい。歯磨きなどは、家庭との連携が必要だと思う。	小学校からの歯磨き習慣が続けられるよう入学時の指導を徹底する。食育、健康については担当者からの講話などを計画的に行う。家庭と連携し、規則正しい生活に努める。
安全教育 ・ 事故や災害に関する安全教育の充実、安全管理等	・ 災害への取組については生徒 83%、保護者 81% の肯定的な評価であった。 ・ 事故や事件の未然防止については生徒・保護者平均 80% の肯定的評価だった。	・ 様々な場面を想定した避難訓練を実施した結果、防災についての意識も高まってきた。登下校中や校外活動時の対応について家庭との連携や情報提供が必要である。 ・ 事故・事件の未然防止には今後とも力を入れていく。	来年度は地域、町会と連携した防災訓練を実施したらどうか。マニュアルも大切だが、いつ起こるか分からない災害に対して、自分で自分の命や安全が守れるように指導することが大切である。	防災についての指導や体制づくりを喫緊の課題として捉えている。あらゆる場面を想定し、地域・家庭とも連携をとりながら生徒の安全を最優先に対応していく。毎月の安全指導日に交通安全、不審者対応について繰り返し指導する。
特別活動 ・ 学校行事の充実、 部活動の活性化等	学校行事については生徒 84%、保護者 93% の肯定的な評価だった。生徒の部活動への満足度は 65% で、昨年度より 5% 低くなった。	学校行事は大きな成果をあげた。部活動は外部指導員を活用し、充実を図ってきた。部活動に対する期待は大きい。部活動の目的を再確認していく必要がある。	運動会、ひばり祭を見学したが、学校全体のまとまりを感じた。部活動は課題も多いと思うが、生徒の期待に応えるよう努力してほしい。	部活動のねらいや意義について、年度当初の部活動説明会や保護者会で説明する。地域や家庭からの応援・協力をお願いし、学校と三者で協力体制を築く。
小・中連携、保護者や地域との連携 ・ 学校の情報発信や学校、 地域との協働体制の整備等	学校からの情報発信については 77%、小・中の連携については 79%、家庭・地域との連携については 78% の肯定的な評価であった。	校区内小学校との連携に計画的に取り組んだ。保護者・地域への周知が足りなかった。ホームページ、見守りメール等、好評であった。	ホームページや学校だより、楽しみにしている。小・中学校の連携に引き続き取り組んでほしい。	「小・中連携子ども育成プラン」に基づき、計画的に連携を進める。今後も情報の発信に努め、信頼される学校を目指していく。

